

## 高等学校航海学習におけるキャリア教育の効果性についての研究

- 都立大島海洋国際高等学校の「基礎航海学習」への取り組みを通じて -

所属校：東京都立大島南高等学校  
氏名：鈴木 光 俊  
派遣先：上越教育大学大学院

キーワード：キャリア教育・勤労観、職業観・進路自己効力・遅延効果・日誌記述

### 研究の目的

都立大島南高等学校は、平成 18 年度に海洋科（水産科）から都立大島海洋国際高等学校海洋国際科（国際科）への改編に伴い、「中堅職業人育成としての海洋教育」から、「海を通して世界を知る」という観点の転換が図られた。「都立大島南高等学校学科改編検討委員会報告書」では、新学科において海洋を教育の中心に置くとしており、海洋科の学校資源を引き続き有効活用することが求められ、東京都所属の実習船「大島丸（国際総トン数 738.0 トン）」についても、新学科の学習内容に合わせた活用が必要となった。文部科学省が発表した「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」は、「キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すものである。」<sup>1</sup>と指摘しており、海洋教育をキャリア教育の視点を導入することにより見直しを行うことは、海洋教育に新たな可能性を与え、航海学習の意義をも見直すだけでなく、新たな海洋国際科が充実するきっかけとすることができるのではないかと考えた。そこで 1 年次に「海洋基礎」3 単位の一部として実施されている「基礎航海学習（学校を離れ実習船『大島丸』で集団生活をしながら、実施される 7 日間の乗船学習）」の取り組みに着目し、キャリア教育の視点における効果性を分析・考察する。なおここでキャリア教育の視点とは、キャリア教育のねらいである勤労観、職業観の育成のため、「職業観、勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」に示された 4 能力を獲得することを目指すことと捉える。

### 研究の方法

#### 1 第 1 次研究（予備調査）

##### (1) 調査項目

質問紙調査（プリ - ポスト）

<sup>1</sup> 文部科学省（2004）キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の職業観・勤労観を育てるために～，p.8 .

#### ア キャリア教育の視点における学習効果テスト

イ 進路自己効力テスト高校生版(白石・三村, 2002 改編)

インタビュー調査（半構造化面接）

#### (2) 調査時期

平成 18 年 6 月 20 日～平成 18 年 7 月 14 日

#### (3) 調査対象

都立大島海洋国際高等学校海洋国際科 1 学年 2 学級  
計 80 名（男子 53 名、女子 27 名）の生徒

#### 2 第 2 次研究（本研究）

##### (1) 調査項目

自己アセスメントの練習

質問紙調査（プリ - ポスト - 遅延）

#### ア キャリア教育の視点における学習効果テスト

イ 進路自己効力テスト高校生版(白石・三村, 2002 改編)

インタビュー調査（半構造化面接）

日誌様式の改編及びその使用

#### (2) 調査時期

平成 19 年 6 月 19 日～平成 19 年 7 月 13 日

#### (3) 調査対象

都立大島海洋国際高等学校海洋国際科 1 学年 2 学級  
計 65 名（男子 47 名、女子 18 名）の生徒

### 研究の結果

#### 1 キャリア教育と基礎航海学習との関係

基礎航海学習の基盤となる水産・海洋教育について整理した。また都立大島南高等学校海洋科の変遷及び研究対象である「基礎航海学習」について整理した。さらに、キャリア教育における勤労観、職業観の育成に関して検討・整理し、それを産業教育に当てはめることで、基礎航海学習という新しい取組みをキャリア教育の視点から見直し、それを融合させることの妥当性を明確にした。

#### 2 キャリア教育の効果性の検討

##### (1) 質問紙調査結果の分析

「キャリア教育の視点における学習効果テス

ト」の分析結果は、4能力すべてにおいてポストテスト得点が統制群より有意な上昇を示し、キャリア教育の視点における学習効果を高めることとの関連が示唆された。

「進路自己効力テスト高校生版」の分析結果は、進路情報因子以外の因子においてポストテスト得点が統制群より有意な上昇を示し、進路自己効力を高めることとの関連が示唆された。

基礎航海学習終了後の1週間目と9週間目に、質問紙調査を実施したところ、1週間目まではその効果が維持されたが、9週間目には元の水準に戻ることが明らかになった。活用すべき能力維持のため基礎航海学習終了後1週間以内の事後指導や、その後の継続的な取組の必要性が示唆された。

## (2) インタビュー調査の分析

「基礎航海学習」に関する不安として、船酔い、コミュニケーション、生活環境の違い、実習内容の4つに類型化できた。

「基礎航海学習」の効果として生徒は、自立心の育成、コミュニケーションの育成、責任感の醸成、進路の発見、を挙げている。

自己理解の深化に関しては、11名中9名から何かしら考える機会となったとの発言が得られた。

## (3) 日誌記述の分析

従前の日誌を自己理解の深化を目的とし、スーパー(Super, D.E.)の職業的発達理論を援用して改編した。

キャリア教育における生徒の学習内容に関する100の記述を抽出した。さらに生徒の学習内容は4つのカテゴリー及び16のサブカテゴリーに分類でき、実習船の中で船舶や海洋に関する知識・技術だけでなく、社会生活・集団活動・職業生活に関する生徒の学びを確認できた。

感想文「基礎航海学習を終えて」への記述内容から、情報活用能力、将来設計能力、人間関係形成能力の高まりを確認できた。

## 考察

### 1 質問紙調査の総合的考察

インタビュー調査及び日誌記述の内容の分析と、質問紙調査の結果による因子得点との関係を考察し、以下の4点の課題を示した。

意志決定能力及び進路計画因子において、「選択

能力」に関する発言が抽出できなかったこと。

進路情報因子において、基礎航海学習では進路情報が限られてしまうこと。

自己理解因子において、自己の興味関心、進路希望の理解と言う点で不十分だったこと。

進路計画因子において、自己実現に向けた計画立案を行うと言う点で不十分だったこと。

## 2 日誌による自己理解の深化とキャリア教育の効果

日誌への記述内容の分析結果から、カテゴリー(社会生活、職業生活、集団生活、船内生活)ごとに生徒の記述内容を分類し、基礎航海学習の特徴を考察した。また自己理解の深化について性格、興味、意識という観点で分類した結果、自己理解が深化したと考えられたが、基礎航海学習終了後も生徒の発達段階に応じた長期的プログラムが必要になることが示唆された。さらに勤労観、職業観の育成については、産業教育及び啓発的経験という観点から、勤労観の育成という点では若干不十分なところがあるが、概ね勤労観、職業観の育成への一助をなしているものとする。基礎航海学習が尺度に及ぼす効果として、各因子得点とインタビュー調査の結果を融合させ、因子得点上昇の根拠を整理した。

## 3 基礎航海学習におけるキャリア教育の効果性

日誌への記述から見た基礎航海学習の効果として、学習内容の広がり、自己理解の深化及び勤労観、職業観育成の3点が明らかになった。さらに基礎航海学習が持つ特殊環境について、インタビュー調査による生徒の発言の分析から、船内におけるさまざまな学習、実習、作業を通して、果たされてきた役割取得・役割達成の要因として、特殊な環境が無視できないことを考察し、それが感動体験を生起させることを示した。

## 4 基礎航海学習の今後の展望

今まで述べてきた基礎航海学習におけるキャリア教育の効果性を前提に、「教育課程への位置付けの明確化」「振り返り学習の重視」「キャリア教育を意識したことによる視点の転換」という3つの課題を示し、今後の研究の展望を示した。

## 5 研究の課題

今後の研究の課題は、以下の3点が考えられる。

基礎航海学習におけるキャリア教育の学習効果を測定する尺度の研究。

質的調査結果の分析方法の検討。

基礎航海学習が持つ特殊環境に関する研究。